国立国会図書館　タイトル『狂言記』　請求記号 京-71
ガラス使用

京
2
71

71

東京圖書館

和書門	音樂類	つ函	八架	二九號	二冊

別置

国立国会図書館　タイトル『狂言記』 請求記号 京-71

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『狂言記』　請求記号 京-71
ガラス使用

藤樹
熊澤両先生著

心學文集

全部二冊

此書は両先生の文集にして人の戒とする又初学の
学業をたすけ人情の本めぐまざる所をもつまびらか
上は中と知るべき千載の成法にして仁義を門として家を
おさめ其部部にのぞみて事を為すこと世に出ん生涯の
事業をせるふみ学者の必ず

明還初道人著

菜根譚

全二冊

此書は明の洪自誠といへる人の著述にして学問道
おづから能人情世態の深きを洞察して清き言毫末
にも細微なるを洩さず世に乗じて良方を説き
上巻は仕宦并に人と交りまた毒を去るの方をいふ中巻は退静閑居
の楽をとく下巻は寄興高遠にして聯語新奇に
結風流の洞達を極めこれ雅趣既すれば終身を
用ゆるも飽かざる学者几上必用かくべからざる書

同 後編 近刻出来

大阪書林 大阪舟橋通安堂寺町 秋田屋太右衛門板

故柳原芳楚納本
柳原家蔵

狂言記目録上

一 ちかてうとう 三人
大名 太郎冠者 次郎冠者
二 すまうこと 二人
すまうとり 二人
三 七くさのつち 一人
男 ちかてうとう
四 さるのまこと 三人
猿聟 太郎冠者 次郎冠者
五 ぶんざう 二人
とのの 太郎冠者

六　太刀さい　三人　略

太名　今まや　男

[illegible]

狂言記上

一ゑりゝ　おり

▲太名かつれもるい大名たちうろくわるく。▲蔦　わるい今

▲太名下六い▲蔦　あんしよりつかまつる▲太名

ゑんのふちやうつるんぢらひあたぐちぐで

るいゐ日い正月元日おけすわがらふとゐりまふ

とわしふそ▲蔦　ゆとしにおなりはさりまし

てなりちを汚れよわがらしやまりせでるか

まねるでゐざりますするにあがられまやれて

いらうゐさうるまもせう▲太名ちちの字▲蔦　太名

▲大名 屋いってそれがしぶ名ものがてあれこ
ぶのにとこゝ拾てわゝつぞ▲下六もろへまってそ
はゞゆりまゝ屋ゆくばざりまする▲大名一限うい
屋ゆじやいそいぐぶゆくすいれ▲下六うーこ
ゆうつくばざりまする▲大名いそげ屋い▲下六
ゝうわ▲大名りゝゆゝ▲下六いわまこ出ぶをさら
もたまりせぬ大名ゆぶつんのさせまひとゝまるゞ
や▲下六 うわ▲大名いそげ屋い出ぶ屋ものいまづか
まに屋ゆくぶつて出ものゝこるゞゝい出ーを
ゆといつけぬこのゆ出いまわとゝまるてとこ

りのでわゝふぞ▲出六そこるまでばざりまする
わる屋拾出ものゆゝなゞくばさらつばる屋
くにゆくふとぞんゞそれがゞゆるゝ出い
屋うゝとぞんゞてわりまする▲大名なにゆや
ゆゆゝいまる一限ういゆつゞやいうひまものいる屋
ぶやゆかかゞにいそいぞぶそゆゝ▲出ゝこま
ゆてばざる▲大名さわくゆゝ▲出六ものゝ▲大名屋い
そこか屋ゆぞれゞとゝらゆくどゝわる
う▲出六いわそのわまでばざりまする前の中
ひかん石ばざりまする前のわつひゝ

国立国会図書館　タイトル『狂言記』　請求記号 京-71
ガラス使用

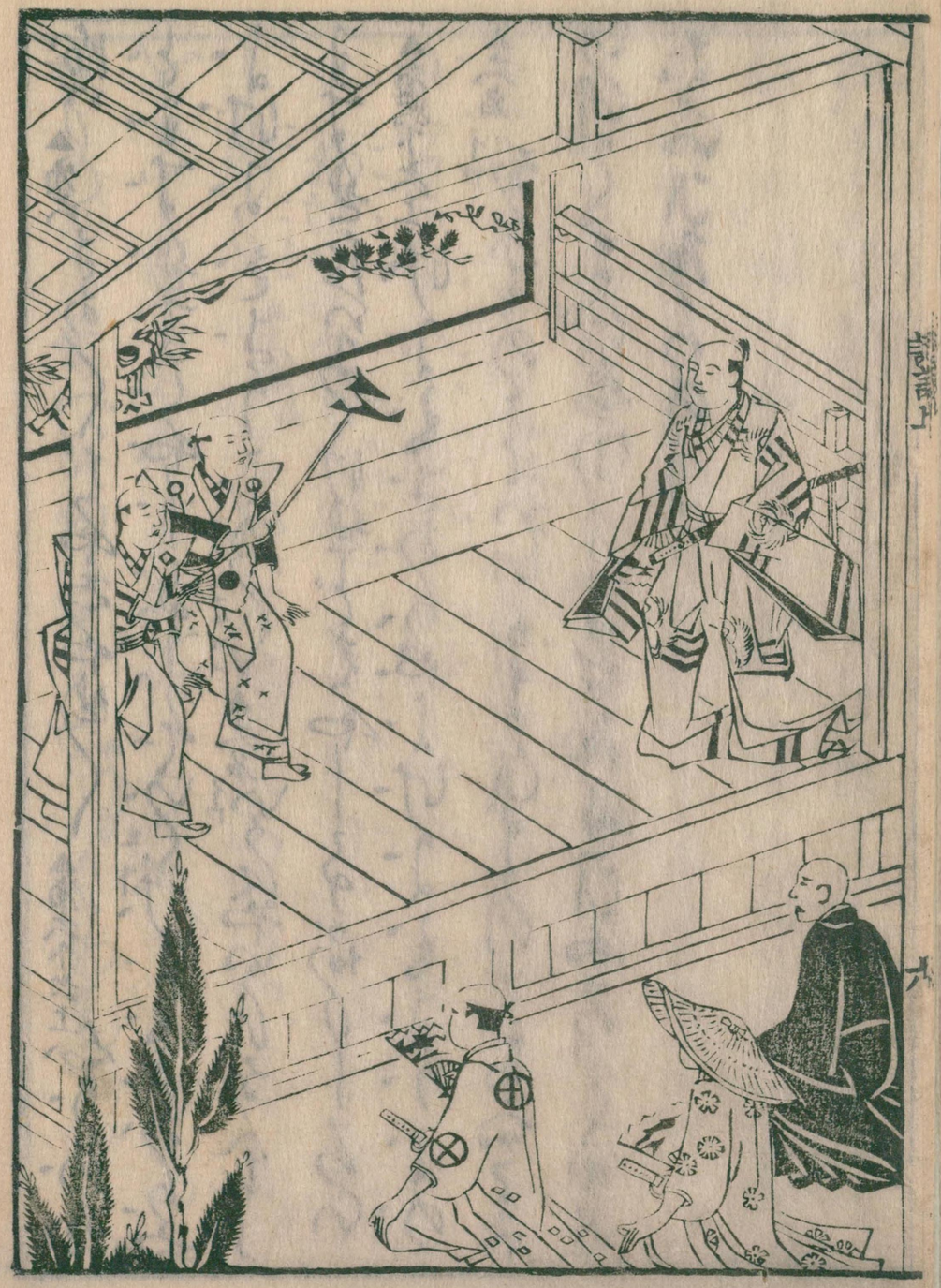
つけ○そぢぷすれもせあ▲大名うんたーあんぐさあ
くぷてあれ▲茂山たれ▲大名ぢぷいぷぷぢたるぷぷい
ひまれ▲茂山たっあいわちとしたとわれてぢぢりまる
治▲大名ぢぷいぷちくぷるふとわーたのたりつきいだ
うたるぷぐわしーそ▲茂山ぷぷぢぷいかいかいか

てぶそいうぶすいろ ▲茂六 りふ下六ぶとのくすちち
うふ御ぶいそいでおそ御ぶ ▲下六 さうでお
らふとぶりふてういぶふくそれりうぐでうまで
ぶしめうぐうり門松ぐるうりいうぶ今いちめうぐうり
てだのふぐぶわやじいどうまでうす ▲茂六 すこうしそ
きうしまいまうぶくわられうぶわうやふうる
屋松はうりまうすうぶのふちうでもわうまう
わうまいの ▲下六 わうそれりうぶわえうぐうりでぶり
御うぶのうえはうりまうすうぶいちうでをわう
御うぶわいぶのふとうぐ御でおうりやううで ▲茂六 それ

しぐわりひうりたいたのふぐ人の図と名をとりて
ちわうしるでうりふうふうび ▲下六 わうぶすてうに
ぶうぐうりわうまやうりふそぐうるのにとりてたわ
さうの ▲茂六 わとりてしぶくやそうぐうるのうまれ
こんおそうぐうるのうは間ふ ▲茂六 とふたとあり
うまにまいりてふうのやふ御ぶとそれうぐうやふ
うるどうそうぐ ▲下六 わうぐうられうぐ一段でわうまやうりうぐ
さわうくいうそ又さうりませ ▲茂六 ちうへいわりわ
は ▲下六 茂六上 ちうふの、奥人は
ちのふ六と茂六ぐあうぐ

ぬとしていく ▲義 わくらはとあをでいぶおとこざさ
ひーうぶりあるまいの ▲上六 それりーがりひつけたい
わとでげーもさわりぶやーしげーもさうまのとい
ふーとーいぶーうりりやろの ▲省六 さわくぶいとく
ゐんさうーする所 ▲省六下六上 伝法院むの後ゑわそうどん
のみ角のぷーとと省六とと省六とがーかりーすまりりてんや
しーぬとしていくげーもさわりぶやーしげーもさう
よのくここ ▲大名石 いんにやいろにるんちーぶーちうのほと
とすーけてだわしーぬとするとぜんぶいの
せりの男ゞ言へいうのーすまひ ▲下六 ちわをてわりや

▲省六 さのくぶだわちやをく ▲省六下六上 ちうかの屋
とすーすをてだわしーるぶーていくぶーもさわりや
ふげーのもさうふのくここ ▲大名石 いんにやいにるんちー
すーすをたいるくけをどだちやーるすがりーろの
▲省六下六上 げーもさわりぶやーふけーもふさうふの
▲大名イロ かふうのーといいるすひぜりのーこちへぶぎ
いりくぶーげーろりーきそ屋をぴやろくぶり
ぶいいろのぷ



二

▲そもそもこのごろ世の中のふうとして
又今日もまたもうだいこのぞんぜるぞ
世間へ
ひろいおつとをたつり鯛とはりよわきか
つりぶのしねとーぽすの見るこそうら
ーーーこもん▲さて和泉の国の郡うと
ではうるぷとうるもあきないまつてふとぞんぜ
ぬ間まうてあてもうるうら
ぷすひうりまのもうぷてうこん
すもん▲そもそもこんたうこん
▲屋ぷそこれ拍ぷこれぬこへうら

てゐるぶつぶつうんくくといふそ
ばめしやうのふとぶんしやうすると
▲こゝろ屋そちがゐるふるくぶつ
ぶつぶつうなどゐるいふことまてぶつ
ちやぶつぶしいふそぶつぶつうけいづのあるね
づゐるといふ▲こゝろ中くるちりとぶつく
ちうねちやばの▲こゝろいやちやうずいふこと
ぶつぶつぶつうこゝろ▲こゝろとふもるその
上ちゝこゝろとふぶつうけいづのねいるも
ゝやぶそちぶこゝろすがゝてゐをいつうこゝもの

▲こゝろいやこゝろそのづがねちやき▲こゝろゐんぢ
屋こゝろをぶいこゝろいふ▲こゝろ中くねちやう
ばこ▲こゝろ屋ちりこゝろぶちやうねちやばの
▲こゝろ中くゐゝこゝろぶつぶつくねり
ゝけりこゝろぶそこゝろ▲こゝろこゝるゐる▲こゝろ
ねんでゐるぶそちぶりゐるこゝろ
ふこゝろ▲こゝろぶゝこゝりてぶつぶつ
こゝろ天王の御ぶつ人の御ぶつ中ぶつ
まりるぶそ御ぶつうねんこゝろぶつくとめられ
ぶつぶつのりんぶこゝろぶつぶつのこゝろん

ようすをうてはちかづくぞ時にうめんぞさ
そりちやうじとそりこわけすくこと
はあれそすきのれ酒とわきされたぞ面へこの
面へこつめにれ孫奇とにこれたかわし是とさろう
うさるよ。▲そうさいそいで彼るをや是▲そ任者のさこ
すそそめぐさそとりけてさそやすそめいすこよ
あるしとぞされたぞよまいうるげいつおる
すひうりよるるせそれ▲そうさまれそれ
こそゆきさるやぞしりくこそのれ酒そ
おこうりとめされしがあるうんのがるとと

とぞとりぐるうんよぐそれ酒そうめん
おるうこちやうじとうるとおけるくるく
とれうんおこぐるされ酒とわるされるぞつうぶ
これうこべこつめにはさうかるそれ奇を一首下
これるこそへうれそうせす▲そ歌ぐるしかあ
うるそたるそうるりうんとわされこ
ちぞうりすうるけいそいおるまひあ
うりよるぞるせす▲そ歌ぞいやそ是ぞこれ
りこのげいづはちづるさうるそるくそ
まそぐるくそまるくるのあるまるこ

くいあいのあさのひるぽうつぼ
ゆるさるぽうこのうるかぽうぐうこんへうる
ぐさうまうけうこせまうぐうまへもけうくぐ
ふぐ　きうけさくらゆうこせまう　やあそれ
うしぐうこそぬぐとうへぐうこて　まけうう
まうこせ　えうえまてうへうぐやうぐうこうん
すうこん　のうくあうまうどぐんこせまう
いうこうぐうこうんをぐやうぐやうこんぬうあまうみうう
うこうぐやうこうの　てのうこてんうけうんさ
ぐうこうぐうこうぐやうまうこせ

ひうんをとみうこうまうこせ　あいうけわ
あまうみうこうまうぐうこうぐうぐうこうぐうこう
いの　あうくわいぐいぐうぐうぐやうぐうこう
のうくぐひうぐうみうこうまうぐうれいうひうんで
いうぐうこうぐうこうぐうこうぐうぐうこうぐうこう
まうこうけうぐうこうぐうこうぐうこうぐうこう
やう　たうこうけうこうぐうこうぐうこうぐうこう
けうこうぐうこうぐうこうぐうこうぐうこうぐうこう
うけうこうぐうこうぐうこうぐうこうぐうこうぐうこう
うこうぐうこうぐうこうぐうこうぐうこうぐうこう
うこうぐうこうぐうこうぐうこうぐうこうぐうこう
うこうぐうこうぐうこうぐうこうぐうこうぐうこう
うこうぐうこうぐうこうぐうこうぐうこうぐうこう
うこうぐうこうぐうこうぐうこうぐうこうぐうこう
うこうぐうこうぐうこうぐうこうぐうこうぐうこう
うこうぐうこうぐうこうぐうこうぐうこうぐうこう
うこうぐうこうぐうこうぐうこうぐうこうぐうこう
うこうぐうこうぐうこうぐうこうぐうこうぐうこう

いぶくてゐちやう▲そし　おたちんぢ〜へぱのてがぢ
ゐるぱの桃と　ぱんさう　ゆう也▲れ　れいうひりて　おぢ
やる▲　あ　せぢみかう〜でゐちゐる▲ひて　のぱ
きんとみさう　ゆう也さてり〜でゐちやゐ▲たゆ　のぱ
どのぱ条うり〜へぱうそへれぢゐるゆのゐとて
ゐちう〜やり〜条りぢぢぱうゐるゆゐちゐる▲を
のぱちぢゐをぜちう〜べしてゐるハ▲ゆう　あを
ぱんぱみさう　ゆう也ゐきてぢどをぱ〜うふい▲を　れ
ゐぱてゐりでゐちゐる▲たゆ　のぱ　ぱ〜ぱ　ぱ
ぢてゆうハ▲ゆ　いやあを也ゐぱてそをめ〜ゆ　ハが

たゐでゐちゐる▲ゆ　のぱ　ぱ〜ぱ　ぱ　ぱ　

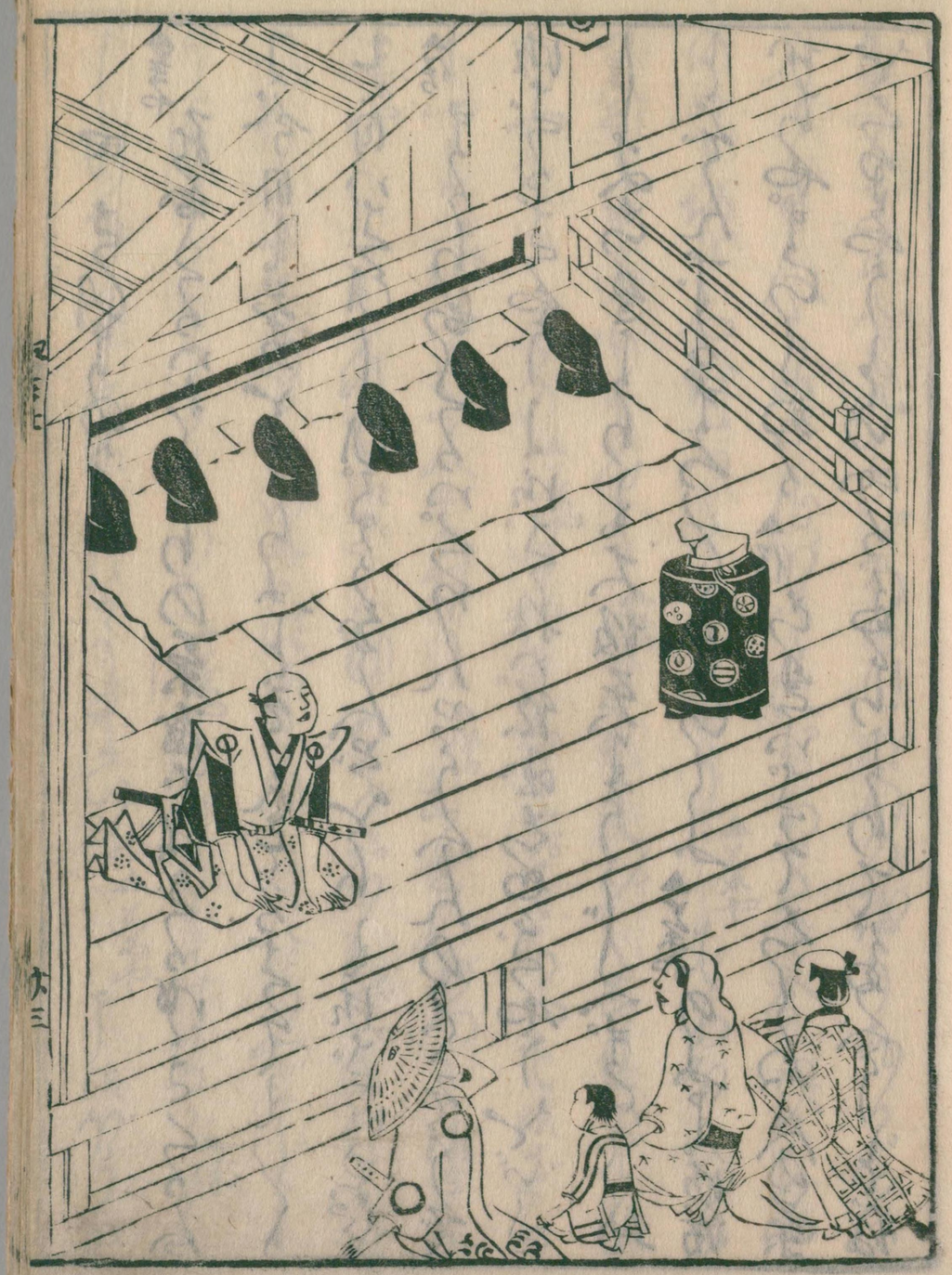
三　七さとたち

さてもゝ源氏の清大将ゝ義経朝臣石橋山の合
戦ゝまけまいらせてゝ一ぜんのいたゝきわるくさ
とは私ゝめされたれどもの次郎殿のいとりいう
ゝさ〇えゝ條方のせいいろかでわるそと信をれ
いどそのゝ時ゝ兵衛さんひゝてせ詩とトゝふるゝ時ゝ
そゝぞゝゝそゝのゝ河へおちさるをたゝみぞせゝぞゝ
ゝいゝゝとゝかゝゝもせゝぞゝおゝもゝんゝゝゝゝゝゝゝ
ゝりゝぞゝれゝ一人私ゝりゝもゝぞゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ひとてはあくとぞんじまうあのせごいんぶんこませ
い一番に田代屋二番にまいだらうんぐいの四郎三番に
古屋の三郎四ちんに古作場八番に墨流秋に歌
子れりのるまいみか者よいのちとまらにちんと
ゆりふりのせいるまいぐれ人私にうゆしろ
ドさんとぽんにやとにふこにりとる
はらんにてぐれさるに元にるにてゆうるあと
るそいそのぐくとわまいぐるの時さに元にう
てまりてひとそいぐれ墨流屋二ド私にうゆりひ
へとドけまいぐ時墨流それにう年寄て者の代用

しにうまうにありのとゆりりあやうにうり
それぐに私にうりてまうくゆりまり
ぐまうにんにいのちにうぐるんとと
ふに元にりゆるりにひぐ年にのとおまいぐを
ゆぐに元にに世の中にいのちにうりにうんのひ
にのぐを時ゆりにそれさんひぐはちやうにくぐへ
そにぐさのふまりそいぐそれぐにいのちにうりてひ一
けいに者にりうにに世てひ親子によい一生二ワのいのちに
いぐくにうぐに元にに世にわまいぐを時年年わやまりてひ
墨流屋とそくに私ぐ子の年年にまりひぐれに成年

国立国会図書館　タイトル『狂言記』　請求記号 京-71
ガラス使用



約のはなをもつてさきのはりにてらしたら
むしてせいいまゝにてり見あつてそのの
めをのしまはらうこびのれうしかそこうくし金
ゆうををもとりあつてさいをはあうびてそれを
さんとおもいまはらんていはさるのをてり
てうされうるれいさしこのをりとうるり
うしてすいこいをくはまうとをんとをら
◆筆さいを一てうれらのいをはひうをり。東南西北のてきと
やをいをうをはげみをくはらんるうをれいへ

四　さいもくのこと

▲業や　ゑぼうしのうりの業屋でばくろうぜくさくろうん
ぢ。今日は業どうらくとそうんぞうぞうてしくく
と申いざこひしひるうかんぞとりもはざくぬる
▲侍　ぞうりあくろうぐりんこうんのくそうで
はざうざやうしはざれい法ぬちゆぞやとびさ
しよちまうりも大坂天まうじへぞうくん
とぞんずうぞくまつしよ　▲業やのあ。はは侍
おちやぞうくめく　▲侍　ちまいぞてちくぬんの業
どくゆやうとうのくぬちうてぬぐうとは

もてうさてもみちとやうりのいぶのゆうちのうぞひ
うくさんくはざんぞうくしてわくて今のなちゆ
のめとかくやはいくうんまうせう　▲業や　もあかんかの
まうくぞうのりませう　▲侍　さてくくちまいぐひ
ちやでばさうの　▲業や　いやあうぞてちやでばざう
ますうう　▲侍　ぬいくうんまうせう　▲侍　ちまいわうはさう
▲業や　くくまうはてばざうもしめうくぞんぐぞうやう
▲侍　わくさてのどうきてばざうのくくうたちやうぐく
うばざうもうまうう　▲業や　はざうまうすうう　▲侍
くけうのくてばざれうまうう　▲業や　アはがうか

ものもとすきぶのさとれすきうを
ねうまやうもかさもきるふるの
ぬ ▲業や のつぱやう業代と
▲伯 うんそのの業ようりうりうりう

でいたさうぬかのようなうくずさでは
ざるようなくごるのうこうごと
ようてぶんぜうしいるでばざる（伯）もれうて
うつけのようてばざれしてそれいなのとーー
せうして（茂や）わるもへばざのいのざいぶいうのう
りーわるもあるそ酒ようて私ちんとらまよ酒ようて平家の
きうんぶちざうまのうこうでのうるぶざわとあい
ちゃもい（伯）ちゃあてけもしたざてのうまようのうて
うでのうまぶくわううけのようてばざれううあり
ようすう（茂や）下四五よういたうのちゃもい（伯）ちゃあ

きれいうてよ茶屋のいんぶーーぶうるのうーーう
うるうるうりりりいねうぶるるりりいうて（せへう）まう
うまあうんいぶ面のうまうりてばうあう今句そ
面のうもうもうばざうかざうざあてのりてもばさ
らふぶそうくまいろ（伯）いわわきへぶうーーうりう
うんぶばりうまうすうびまうせうをがうい（せへう）
あんちゃ面い（伯）私よのうちうよゃい（せへう）ちあ面いた
事のうまうちゃふぶうりてひうりゃうそうりいの
せわうゃい（伯）百者いおうまうあうひざいゃい（せへう）て
ううりりでわうて（伯）百人ちあうーーいの（せへう）

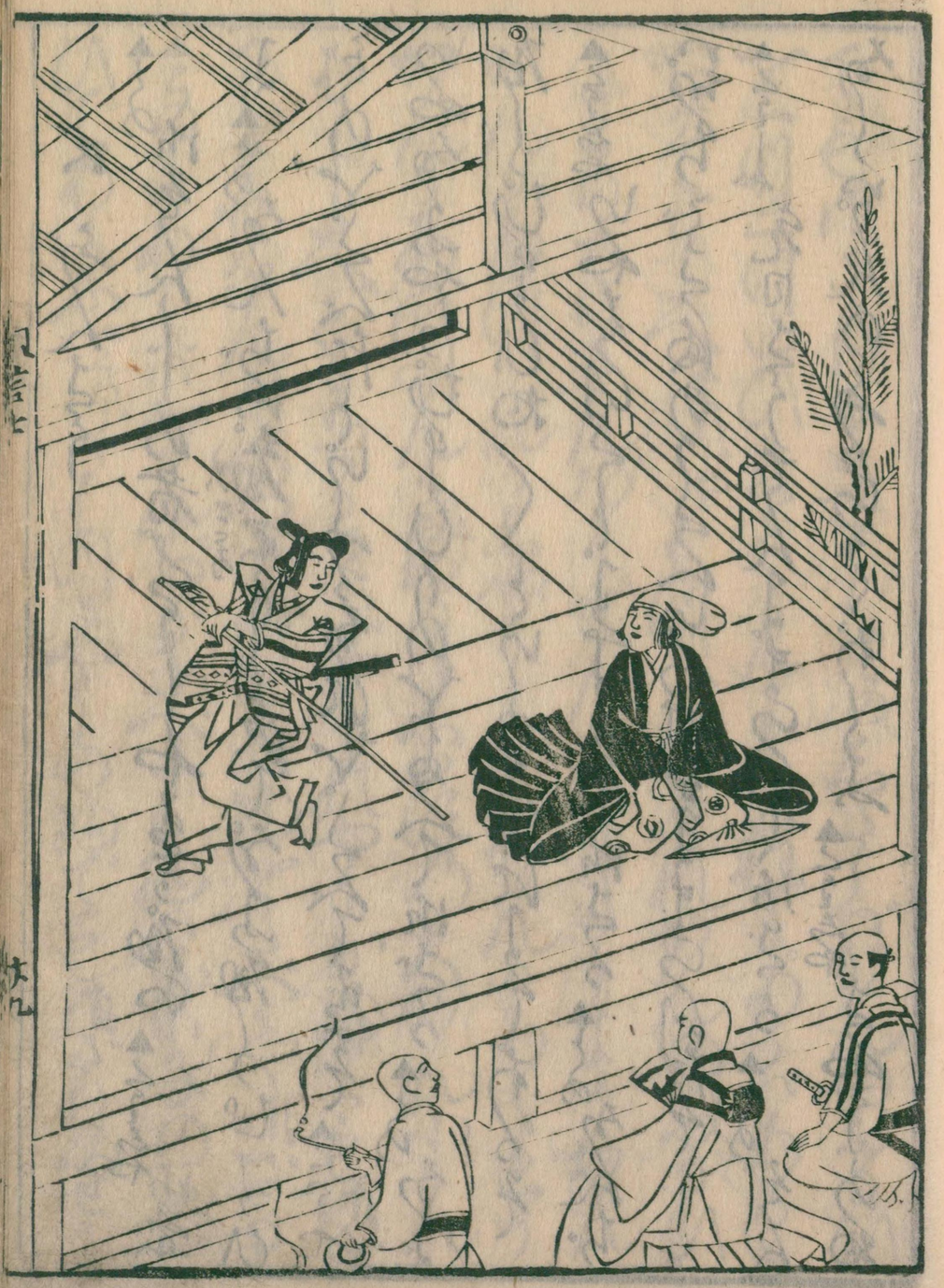
いやそんなのしいのせうぶかりしでそ百人の番
い▲伝いやみなへわとうしくるぞそれしへ寺ちや
まよりてさそれへゆりひくりねぶそうしたりを
▲せんそうあしへやしのうそぶのひしらやふそうりどを
そこに百でおぢちあしぬいの▲伝和尚百人のせんち
んのまさうかどにのせそたりを▲せんそいやそ
むるしぶそうまうさうざわくぶのらいしやきい
のしくごるのそびあのやうなのあのうぶそわ
でおぢちあうぶ私がいうぶわんをいとうんかをと
あうしし▲伝のしへ和尚びうひうひへそこいしわかやあん

どいぶをいう▲せんそうそわしのかんのいまうしたうまうい
わかがわつさくよりわさくいるをあうくれ法いぶれ
うしぶどれへれさうぞ▲伝いやいや開祖うしぶ寺へまいう
わでおぢうまやう▲せんそかまうぶうぶざうがぶちうまう祖師
しはざうぶそくは坊いひうこいるをかぶはそうう▲伝和尚でう洋
ざうぞ▲せんそいや祖師のうまうしいぶをう▲伝いやひう
へぶうそうぶそんぜう▲せんそうのしぶやうりうぶのの
いまくのりあげがわまうぶかりしぶやはうぶ
いぶそれぢやうぶうりて川中でそうまそれうしなく
ちやうはへいむうしをふ法へうちわげでがきまうまう

国立国会図書館　タイトル『狂言記』　請求記号 京-71
ガラス使用

▲清わくごといるとぬしやぬせんらんのぞくこう
ぞくこうそ▲せんこうこうりきうまう▲俗平家のさん
ぬち。▲せんこうこうやぞくこうぞくぬぞくこうこ
いの▲俗いやぞうくでぞくこうそ▲せんこうこうやあんこ
ぬしやぬぞぞぬぞぞ。ぞくこうくぞくくとくくとるぐ
くりんこうこうまでぞくこうえそなじぬりり▲俗ぞくこ
くんざれのぞくこうしりぞくこうぞくくずくさじやと
いくくこうぞくりんこうこうこうこうこうぬりのいぬじや
りね▲せんこうこうそもくくそれいぬくくでぬりぬ
ぬりりぞんこうぞりりぞくくとこ

りこりぞんそれりやぞうこうくぞりりこりりまんこ
うこうそのにこ▲俗平家のりんぞりりまこ
のくくこぞりりこりりぞじやぬりり▲せんこうこうわくだりこう
りこりぬぞりりいりこうわくこう▲俗りりこうぞりりこうこそ
▲せんこうこう中くりりくりりこうぞりりこうこうぞりりこうぞりりぐ
わりこりりこりりぞりりりりの▲俗りりりりりりりりりりりりりぞりり
▲せんこうこうこれこうこうこりりりりりりりりりりりり



らんどさうのしやまい御ぐそう
そ ▲侍 ちくちくてゆだざる ▲せんどう さわぐらんしやまい
ゑて今のわとい ▲侍 年寄のきうんごちぐらのぎ
のうこぐつ御れうこ ▲せんどう うこでわ申ゐびや
そのわとぐさてうこうぐるゐ ▲侍 ちくく家
屋ぐりんと御ゐいてうこ ▲せんどう のがんぐうく
ゐ業やいぐまいわとぐとのぐしちうそぐやわとぐ
きくうこうれざる ▲侍 わとうれ申ゐ年寄のきうんぐちぐら
ゐのうこぐわ今ゐひ付うこ ▲せんどう ゐと ▲侍 わと
▲せんどう ちのとて ▲侍 おゆのりのひさ ▲家来 ちぐでちゐうぐ御ぐとぐうこ

又ぶんさう

▲このはそんじの者ども
▲このなんぢが奉公
このどもべたといつぶるのは
いやなのおやらぬもひりのと
屋〜ぬもひねくといつぶるのそ
▲こりやいやもりてまてばざる
いぬちごこ屋のくへいつ時かまつ
▲こりゃ元日さうてんまてばざる
なのぶんのみうらくおしん

▲このはそんじ
▲こりゃはな
▲こりゃ
▲このそん
▲こりゃ

てもはざりませさり
▲このもてばかりのぶる
と一門こりいひとくんこ
やぞそうへ
▲このそれかんのぶる
よりてぶんがうぜんこ
かんの屋門うんやうまうかんうちまう
かんう屋門うんう。和門ふたの大かんぶん
ぢ〜べくうう
▲こりゃ
つもせもんぶやぬ
▲このさわ〜べもんぢぶ
ひでわふ
▲こりゃ
はやそれやうの和でもはざる
はやぬもとべくはざる和の菓子のぐ
はでもはざりませう

▲このそれくうのぶるひよとりていぞうんうかう
じゅうちゅうぞんんうかやうちゅうぶりうりどこう。
ぶやくちゅうくるこうからちゅうぶ。梅いゆぐいところが
しくくふくろ▲こういやうやうのゆぐいぬでいけざ
つとはせいぬやくひまのぬぬぬこべくけざる
▲このぬいあんちぐこべくいてんぞんろぶるのでい
わちふぞで▲このぞやくしのうのぬでけざうはせう
▲このてんぞんのぶるひよとりていぞうめんうそ
ぞいちゅうんどんうけいちんうくうめんうまんぐう
う。梅いきてこのく天海至神ぐうくふめてわうち

▲こうぞやいやさうやうのぐくくさこのぬでもけざりまうせ
ありんぬ▲このさうていぶりんちぐぶうあべくうちぶくぬの
ぬくひでおくふ▲こいこやさうやうのぬでもけぶり
まうせう▲このそれくくぬりぶりていぶ道州ろ式
ぬうち古今万葉伊勢物語論語朗詠かうだうキニ
ぶんが浦ぐくぬべくおくうち▲こうぞやいやうのぬく
さいぬでいけざりまうせりんだ▲このうていぶりんぐが
ぬべくうい武士のたぐひでおくふ▲こうぞやさうや
のぬちぐくもけざりまうせう▲このそれ武士の道具
ようとりいだ刀刀ち。槍ち。長刀ち。薙刀ぐちぐさす

まるこうの海の桜の千文字の千さびさうさひわてう
かうわてかうわてまるこてまるこてかうこんべ
しかこうこうこてかうこうこてひかかのかりこうこうこ
うてかうこう▲くるこかいわこうこやこうかのかいわでいかこりこ
せかんだかのかのしかひまとかあべてけかこう
▲このこうこうこうかんこうかんかうかうこうこうかんかの
いかのかこかこうこうこへていかかりへかう▲くるこやいまかも
ひかこうこりてけかこりまこうこうこ後れのかこかこかこへ
そうこうこうこうしかかこかこうこうこてこうこうこのこかかこまこ
かかれのかこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこ

▲このそれこうこがここのこくこうこむこのこ蜘蛛蛾記とここひここ
こうむ紙二二枚かこうこうこかこどこうかこかこかこうこうこ
てかこうこかこうこかこ▲くるこかここここ▲板も石橋山の合戦
とこうここかここうこう治承二年八月朝日のこうこかここ
清信頼朝いかの藻こうこうこたちかここうこう清
せいい三百こうここうこいかこうこうここうこうこここここ
こうこうこいこうここここここここここここここここここ
あこうこかこここここ平家の侍こかここの三郎といこ
者こうこいここここここここここここここここここここ
こここいこここここここここここここここここここここ

国立国会図書館　タイトル『狂言記』　請求記号 京-71

ガラス使用

金うくらんのくらくとせびとうのうれ
ちらくらくらく

わつやぞるのうへへてぢんぞとぞてこぞあるがあひ
へぞうどかつるぞあいるんぞこのわくてあるれぶたとへば
板屋のわくまつにぞむちるぶこくぞあいわとぞうあき
ぶぞうりとぞうぶぞちうりくぞうくくみを
ちうぶてあいぞちうる岩そこうぞうぞあぶ
ぶてうあるぞのぶてうあるぞされをあ田いかまさう
のちうくみやぞうけくわちうへ矢頁ぶうるぞうぢん
むでとのうぞこのカとぢん撞くぶびうけぶるぞ
まびぞれどもそこまびうてうさうとぞうひく
もてうけぞかうりわげこうてわあいげるぞうち

さうやまうさこのぞうやつまりぞううさうよげてぞあと
もまあり老武者ちくいぱぱうちうへくやくさ
ぶぞうぢぢしやけぞのくさうぶぢひうのうさうぞか
わてくこうちうこうちぞやつうさうやくくとうち
けまいぱけいかまびくてぢひカ運のつさてのるう
やつ同くうさあちうりけいちうさいと
くさうけふとうるぞうるぶいうへぞやうされてあさ
つうくあ長尾新六新六かりわひくぶ重いぢ
者こうさぢんぞとうんでうわりやわうへあうまさ
のうぞトかぶまうのうぞりのれくとわりくうさ

国立国会図書館　タイトル『狂言記』　請求記号 京-71

ガラス使用

六　あちこち

▲大名　[illegible]

▲こうたち　[illegible]

▲大名　[illegible]

いつぐらのそこでるの今日ハ小野の[illegible]日ちやさ

んいつくそうそうまいれ　▲こうたち　[illegible]

▲大名　こいつく　▲男　[illegible]

[illegible]

やいこうたちやおり　[illegible]

[illegible]

[illegible]

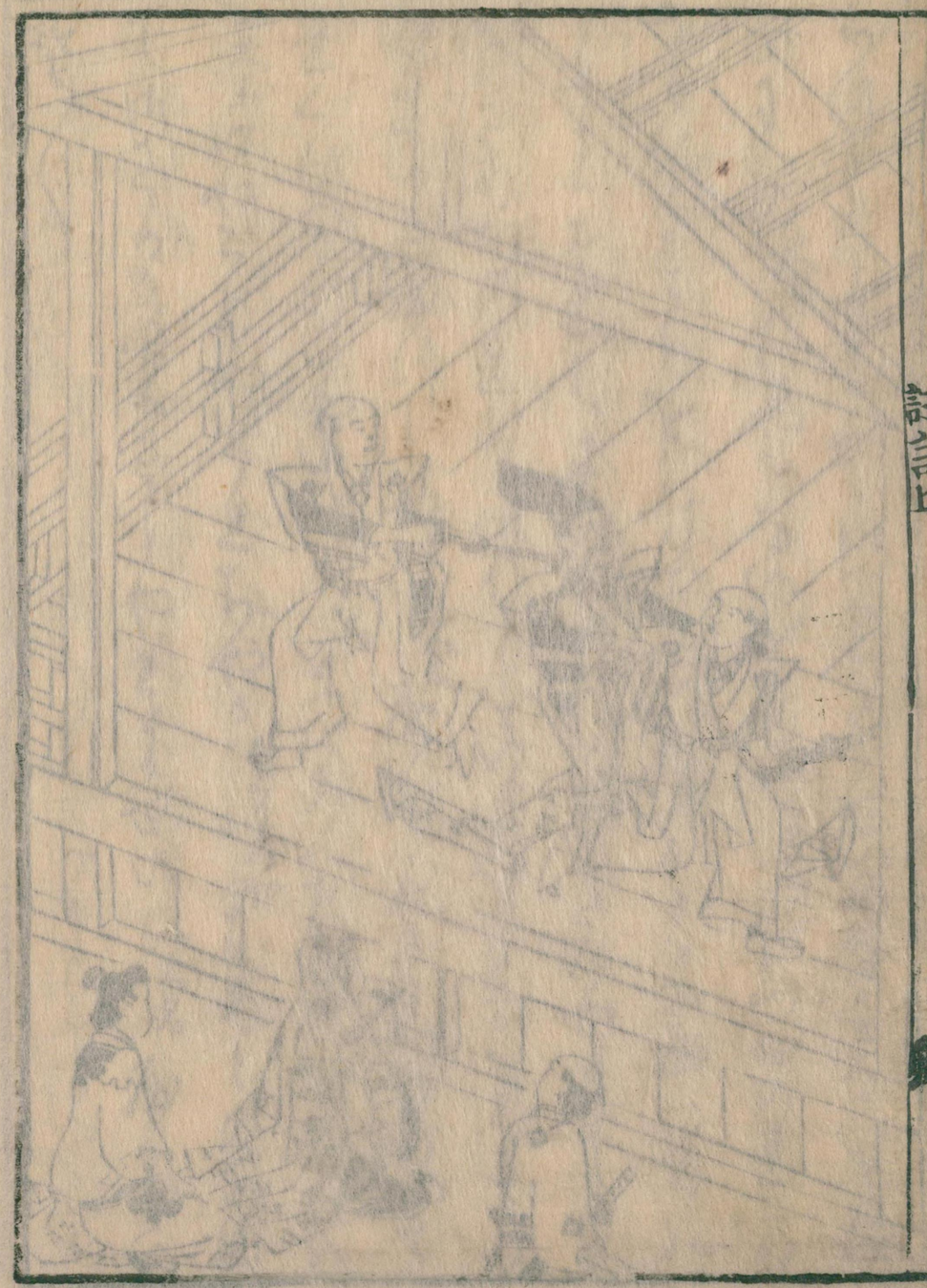
▲こうたち　[illegible]

てゆうたかどやどそりてぞまらうまをう▲大名ゆい、
いそそりてらい▲こうたろやゆうまへのそのうるかどやこ
そりしやまをうたい▲大名そりややくいそひでそりく
こい▲こうたろやが　こまりてはざるぐらきのうてまい
そ▲男ちてろんぐぱのまそのぬいそぐりたるう
かどやぐうそりゆうまひう▲こうたろやわちんせまを
うく▲男さやしゆさめそがうそゆうろ▲こうたろやわ
▲男しやそのひうかしつの言やさしだを▲こうたろやい
るしわくさやいの▲男ちがうゆうろしわうまひう
▲こうたろやわしちんせまをう▲男まわうりやしい仕合

ではざうう▲こうたろやしのさ角くぐりまうくく
▲大名そりや▲こうたろやうかとわちへうりまを
▲大名角いそれいを代ちがうそりしやうぐりや
そこいう、▲こうたろやわりやくわりてはざう
▲大名ぐりまれくさわそうまんたい▲男こりまや
ゆんしまそう▲大名ゆんとまうりまうがわうりのう
角いうりまうやそのたかもうるかもと角
▲こうたろやしいわそりまりた▲大名そのうまかうら
へ念▲こうたろやうしてまりてはざうぐりを角いわてま
せう▲大名角いゆうりとわうそうと角い▲こうたろやまり

ちがいとぞ〜まうしてはざりまうせいのおまたふるいの大名しやうるいとき▲こうちやまつなのまこのるうしぶこさとりとりけて▲大名屋いそうかあつうんとすんぞ大ちうきいやい▲こうちやまつこまわきまもいのざわのきちへわしとうまとうまとあるれのさうぶりしやい▲大名屋いうんこまわりやそきくびへうけいやい▲こうちやまつこたりやりけたい▲大名いやこりやときちびやう▲こうちやんわとのさあではさうう。ゆうさしやきまうせい▲大名屋ちうまいたく〜

京
2
71



絵入

民家育草

全部三冊

此書ハ民家平生つとめの心得ハ勿論其外世の諸事をそなへ人をめしつかふ心ばえ其ほか美徳と集めて ひらき書し画をまじへ文字よみやすくかゝる所つけ児女にもわかり易き やうにせんせつふしてしへ伝授せし物なりひらがなつゝりのみにてよろづ

絵入

清息千字文御家流

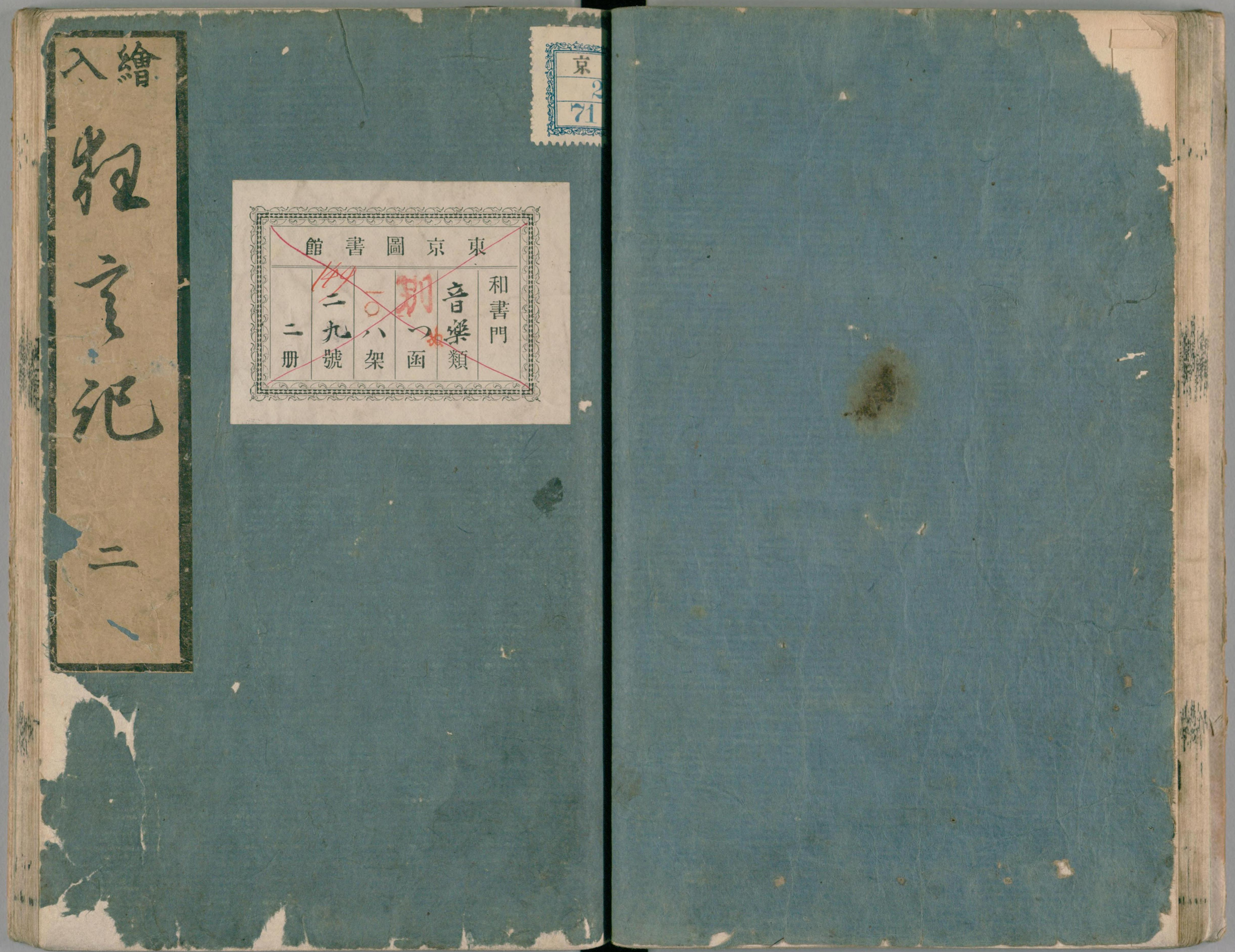
全部一冊

此書ハ書状文章ふくるゝ紙あつらへの節字よりぐさ 千字文ハ家文見ぬと出来ていぶかしゝ去 かゞくりとおぼえやすいと又是ぞ清吟よ去 よへぬと書面をまつらへあつへ平間仮名の中 実字ハ紙に篠字の家文後にかゝり

板元 浅草寺町仲見世通 秋田屋太右衛門

国立国会図書館　タイトル『狂言記』　請求記号 京-71
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『狂言記』　請求記号 京-71
ガラス使用



繪入

狂言記

一

東京圖書館
和書門 音樂類
別つ函 八架
二九號 二冊

京
2
71

国立国会図書館　タイトル『狂言記』　請求記号 京-71

ガラス使用

狂言記目録下

一　[illegible]　三人　[illegible]　男　[illegible]

二　[illegible]　一人　男　[illegible]

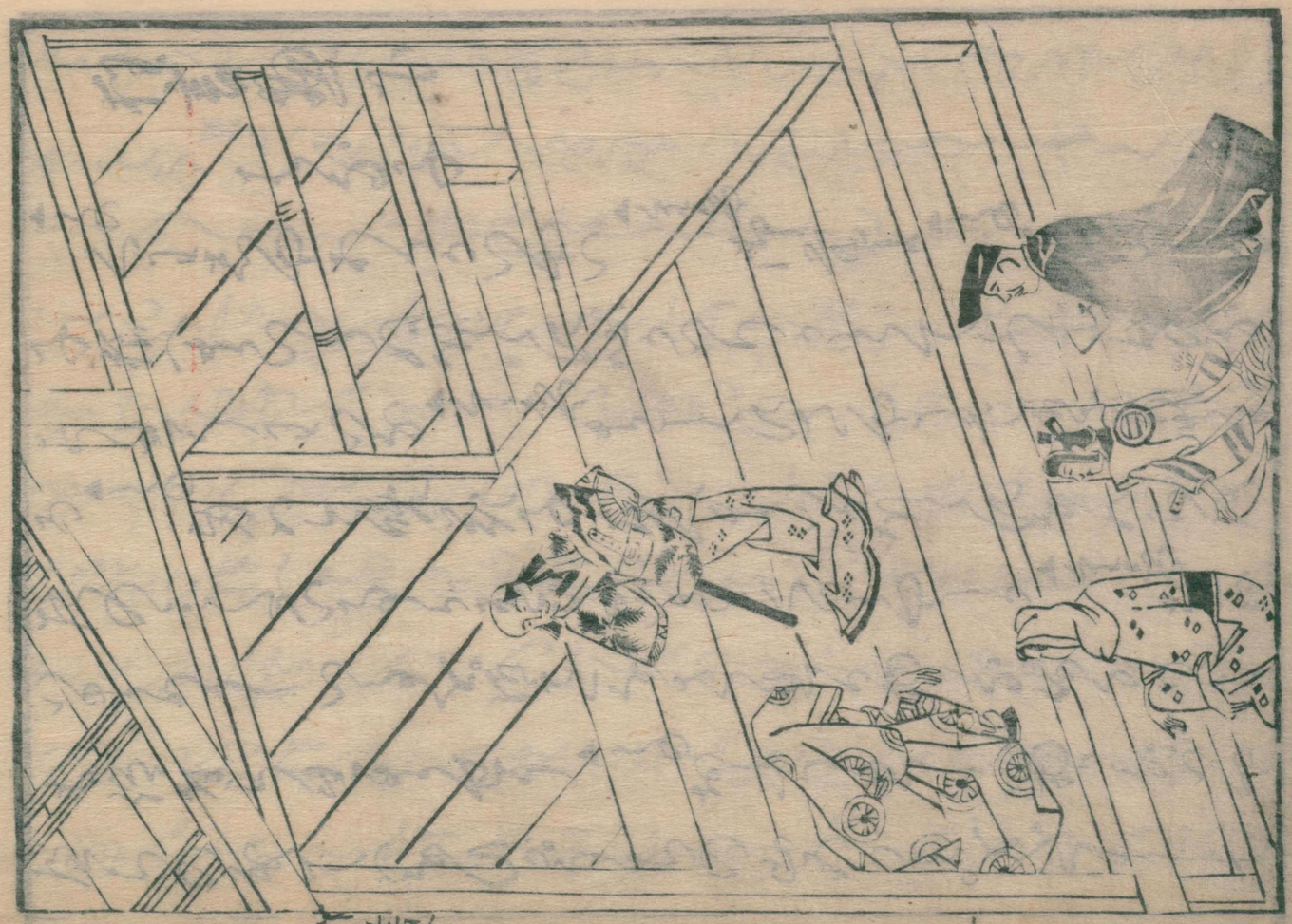
三　[illegible]　四人　[illegible]

四　法師物語　三人　男　[illegible]

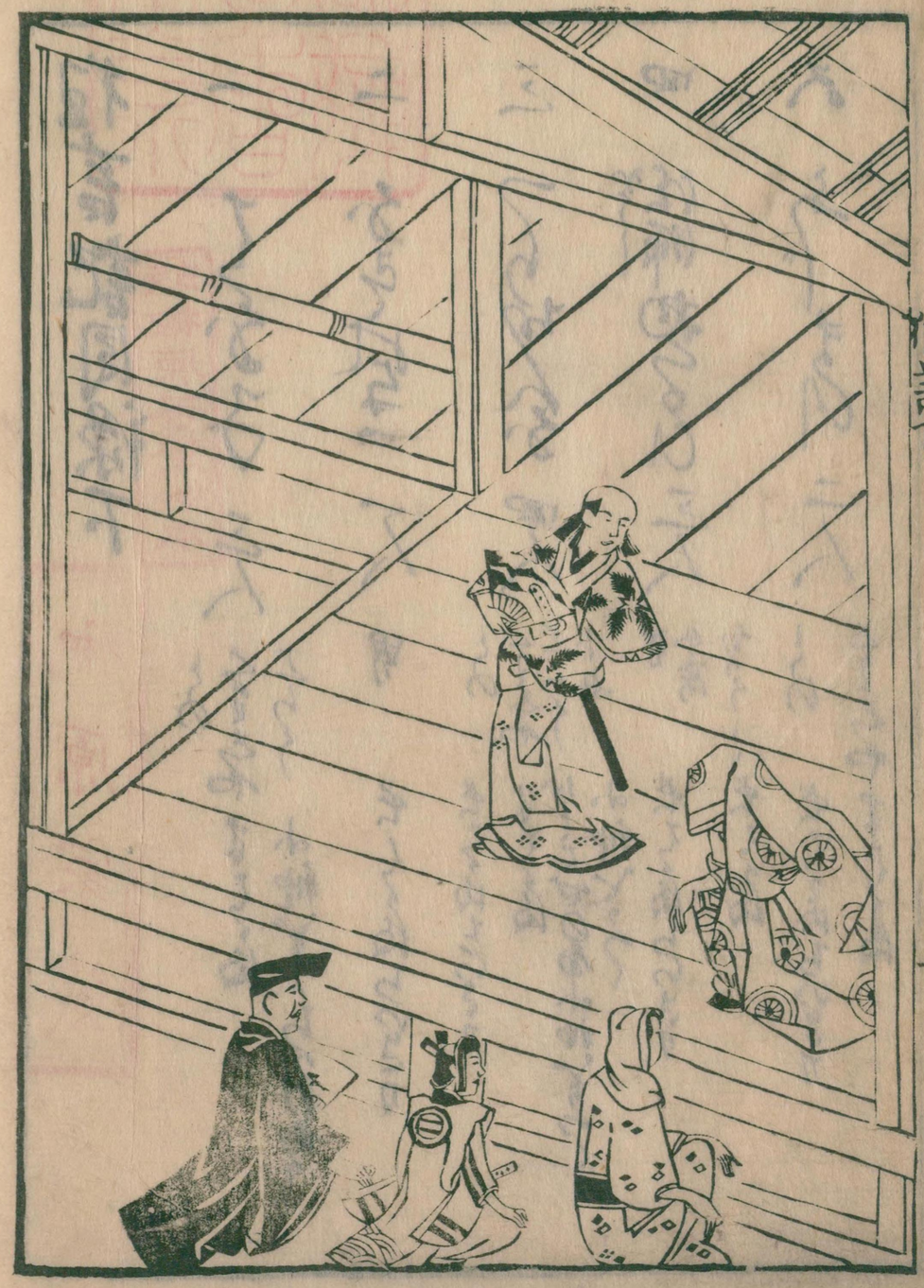
五　[illegible]　二人　[illegible]

東京都立中央図書館蔵
故柳原芳楚納本
柳原家蔵

国立国会図書館　タイトル『狂言記』　請求記号 京-71
ガラス使用



国立国会図書館 タイトル『狂言記』 請求記号 京-71
ガラス使用



狂言記下

もろぶた

▲このくりまちやわらうやい　▲このびんぼうにんの

子花へまいらうぬかどにぶらうらうてぶらんのふ

こうまつりまいか　▲そこもとはいかいさやうでゆるりまする

▲この分わたし成　成ちゃんのうかれ

たのこうらうるまぶらうまぶらうこと　▲そこもとそい

つまうまいるまどぶたこのまうまうまうわらふかなるりと

も仕なうまいまもう　▲このなふうまいわらふおらや

ら方の我でいるのぶうちうのぶうとぶうとぶうとして

ふさんとりしゐたそのごうもつ　つぎうにゐ七日ゐ門弟後
のいとこに程ぞ角分ゐ言べきぞ　ぎりろるとぐ　たまし
てわもべやうくゐ　ゐ　ゐんのしてわうかいうそれば
いぞ子拍へまいり此程のちまとのぐさうくりゐ
ゐんぢつぐ元程ふとも角とぐしてそれぐしゐ
まてぐらぐんとしてぐもいぐ　ゐのうぐとぐ
うしぐのうもぐりぐりうんてぬげいつぐゐ
とくあいりもわやうしてぐとこのじもく
▲ことる　もいわいまくゐ事てれぐうりまりうを
まいうぐうぐとる角のまうとちとうう

ちやうやう此俄しわわていなのりますまりひ▲この角わ
ゐるまひとい来いりそうしうのうぐとる角かぬ
そういうぞれへゐとれうぐゐでとそふ▲ことるまりり
まうゐしわもぐいうとる角拍ていて
りうはぐれいやうしはうこひ月いとしませ
う▲とのまうしまうり▲ことるゐ中くぐんのうりり
ぐはぐりまもう▲とのかゐくうりのゐぐもも
義子拍へまりたうぐはぐうぐいつもぐと
ぐるのうぐ月ゐうのむそこぐさわひ元程ゐとこ
とぐゐいてみゐやうとどんゐ一度くゐ月ぐまい

うやうてくらん　ゆそうぢんもそくわびいかる
さいしくやうてくろう　▲こうさう　屋敷くゝ屋ぢてくん
らんしゆまつもものや　▲このたりてぢろうらどぢるふ
▲こうさう　屋敷くゝつもうぢらるのぶゝぢえ子敷へはさ
つまもしゐもしぶ門のこう　じいこゝづてしこう
はゝこゝやまそくぢさこれやもあ　▲このまもしうぞれよ
くくらんこいぶどつ屋てゆこぢうこいよあし
やうりぢゝうもしいとはりん　▲こうさう　わくこうて
はりのふぶぢりもこう　▲このやまくうもしう屋
ぶいそふくぢ子敷へやこうふ中へ　▲こうさう　まこういぶ

このこゝ二七日ゝ内ぢ猫へまこうこうこうこうてぢこうて
ひまもとりこうひぶともあこいこうぬぶあまこうり
こうやこうしこうはりひまこぶぢぢんの内こうこう
こうとぶんまいまこうあこうがりをこうまこていはん
ぢこれぢとあまこうこうこうこうまこうせあぶぢこうこえ
あゝこうやこうこうとぶんまこうこうこうしこうがりひまこう猫
もくぢこうぢんこうこう屋こうこうこうこうこうこうはん
ぢこうこうぶゝくこうこのこうこうひありてぢんのぢこう
ぢぶりまこうせこうこうこうこうこうこうこうこうはこうこう
ぢこうこうてこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう

[illegible]

[illegible]

[illegible]

国立国会図書館　タイトル『狂言記』　請求記号 京-71

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『狂言記』　請求記号 京-71
ガラス使用

りんとうてた。こうこ　あめのつるぶぬがめまてこで
のぶらそこいとうむしるべんこそこうしまりの身ぶそこ
で四こいよ。花子相のでさけしやまてそれしらも
とうてぶくのまうへづまてぶもくあめのふうこく
うごぶりまたぶづうへめりしやまいこてお
きらおとうをてぶされてぶいろくのつりるお行
まうけぶこつおそぶ行りぶでや和ありのお
らすぶるいこぶまぶけもはるのに和なのけ
まてぶるさまする。もたやはいらしとぶへいぶの
時花子相おとおけこやまてこうこきまくいふけ

りりのトくく月和こうこすいぶのるくぶりめてい。
まの和いうるのぶとかつこやまてこぶそこでへはぶれた
和もあけまこまべんるみまこする所ぶてまつふ
とうてあまべぶそこで花子相のつけはこるされぬこ
とうとかやくくまてこぶこのうこ所のまてこうみ
こうはぶるのふとかけこやまてこぶそこて来ぶい
のうこぶすこうこぶれうこうこうこうこた。こうこ人のつきみ
てぶづうこみまいくゆるこのるくのるけこうめ
ぶ和りまこよぶめままてづいうこかりこうはぶをいこと
とぶこうこうこのてあまいぶけりとこうこやまてこぶ

はかゝ神ぬ花子拍のうくるのこゝろみやてゝ
ゝひるのハあるまゝひ〻でゝてゝ。こゝろこゝ
ゝそゝ〻ゝ〻ゝ〻

城のちかのそうあまうさこうみどうかるのの
あのぶこのぶんうーうるとあのぶらいさく
りこんこうこうこうそこうぶのうこうとそこまひさけうぶそ
のうえ判官はらんしてはあ条さうひりこをめさ
ぜおのぜいいうこうぶは復おうるぶこりこうけこ為て
けりてぶんひぶおぜいこうぶのえ将軍の矢ありてこうぬ
てぶいやいはらんどらぜひこうどそこうどそこれのいて
こうふかそこうこうしおうきぶいやこーぶこんこうのか
うり乗りこうておうこうんぶけこうあのおうぶこうとへ
こうのここうりぶうぜうはこうぜいへこぶーあけをれぶこう

ぶりんこうこうこうめりぶこうみうこうぶりぶへこうこうりのい
こうぜうこうくこうこそはうこうりこうぶは味方こうはぶづき
りのいおうぜうこうはぶひぶおうこうりもぶ野のおうは
人形はのおうぜうすけりこうがうこうこうこうこうこ
とぶこうはうのぶかけるおうなどこううこうこうこ
こうこうこうこうぶいおうこうをぶーこうけをべうこう
そのうこーこうこうこうこのいぶのくこーいこうぶうこく
こうおうりこういぶそのはうこうこうこうこうぶりのおの
こうこのこうぶかこうこうぶこうこうこそこのいうおうこうぶひこう
ぜこーぶのこうこうぶこうぶのこうこうぶこうぶへ

いでゆのひやうけ者のはなしこまる
判官はらんしてぬわいらんにちこわのおきく
うりこうわのぐどぐさぐめてみくこの軍兵
よ射ものいりこしくわうんわかわの
わつぐのもんをうひしや射ぐこきみくこう見
和さをもてよなつくしわりーうぐそ射ちーう
てすりてひさやうのぐんのわいまこいまうり
うる事をくひつるいちじをつるまうるべき者
よおりをけくきひへくーわけ望ーぐの射判
官そをを強金とうりて西おーむうんずうつ

りのうぐそこうも義經ぐ命ーとそもくべくもてと
うくーぐひて強金へトひんへいそきれトひへそ射
ちーぐうりのぐうりとぐーそんーぐ
ぐとまうりくうりてくぐそのこるのそのこぐ
わやそぐこくつるぐ名るまうりわやをけくる
きんぐくーまんのぐくーわうをぐ分うるげく
ゆくつまとぐのりぐんげぐ
つまぐーくこへぐうぐさてむうりてわのまをゆ
をを射ぐぐぐわりわりぐ
りのこそぐいちぢやうつ

かされひへいどうとうんあのりしげしぐみな
ぬまのいのりてくぐぐひあすうぐのう
そそぐ五一るのふとぐぐのぐえるぐかどうそ
ぐぐひふとぐのりいるぐぐろい三月十八日のと
とるるうぐぐそうせそびしくぐぐいくいそぐう
りはもそそりしぐうそうそうそのわぐぐ
ぐぐるるるぐぐぐうのそれ五一うかどひそ
ひでてうぐとぐぐるとぐぐあそそぐぐあそそぐ
ろう八まん大がそりなりしてくぐぐるぐのの
そのひゆうぐん大はれかおぐおそうへそうへとお

わりうそぐぐの矢そりさそあそうそのそぐ
いぐぐんぐそりのるるぐぐう三つうそそりわり海中
うそびそそぐぐうそうそうりて源氏うそのの氏
そそうそそりうぐぐうんるりひりちぐうりうと
そるそとそりそぐみてあそいぐぐるりどん
びぐうそるわうぐるいうびうそそうへうそり
そ河五一てひやうそいぐへちやうそんへどりぐぐ
三そそぐりりひいてひやうどりるぐぐわやそそ
そおうぐざのうあでどひうりとぐそうてぐぶ
らいぐそそうるぐみおうれるのわうぐざいぐそう

国立国会図書館　タイトル『狂言記』　請求記号 京-71
ガラス使用

ぞうりをぬぎてあがれば
うちのそばにふとんのそばに平家いうるば
たとゝめいとく射てりやぷうとんしけを
いの源氏の忘ぐゝとひてぷ射てりやいてりぷ
ゝとくぷうろこぶうのそばぷうこぶうあま
りのぷうさゝぷうひゝたるひゝぷう
ていとゝぷーの五一やぷう射さるぬけるの
ちちへとくりちとのうぐぷうけとゝあと
はちぐやうわひゝとゝぞやけり

三はりはんぶ

▲このくりまちやいとう▲たちのはなし▲このなんぶ

ぶたるとくとけ年までさぶらうつまぶるいぶ

ちやうけはれば西宮のちびて三命九命屋を

ぶんぶくしやとうけ屋をいるをへまつりつまと

とうけうとうのはそも仕れ▲たちやはるる

きはぶちやではぶる西の京のちびて三命屋

はぶんぶくしやではぶるをへまつりはしやまて

さぶきるつまとやうはけさはしやまをもしば

うはさるさはたい私も年をさぶる書う

はさうぬつはぶるはぶうけまをうへそはで

はぶりまをい▲このたはのまはそはしばか

事とはしやあびて三命ものとはたい

屋やそうはうびて三命屋とはは一物じや

▲たちやとのさぬはんまをちやまをちやは

はをはりはりはあびて三命屋ずでは

はうはりははうびて三命わの西の京はいまで

つはりまをぬでうまでたちびて三命屋と

はまをは▲このわはいうひ物ちりでおちやふうは

まはそとわまはいそはぶるはりぶうとを仕れ

▲ふるじや 見てはござる ▲この屋いつくしかいけみちふちあん
ないか行てゝすぐゝ名所をさうせきとゝこれ
▲ふるたや まづちゝう山海てはござる ▲この まつてゝはまつはうふ
だゝりい名所をさうか ▲ふるたや たちやさゝうわすれ海
わきまへんゝこのゞ西の宮ではござる ▲この たちわいりふ
たちゆふたちたちふ しゝよの山いはい山ぢや ▲ふるたや
わきまへ山ではござりまする ▲この ちゝか屋川いはい山
じやぢふ山ぞ ▲ふるたや たてはい山いはい山ではござる ▲この
扨いなゝとちゝぬゝぢんゝ ▲ふるたや いやあいはいはいまゝ
たはらちの海山ぢんゝ海はいはりゝちやではござる

▲ふるたや しゝくあいはい名じやおしてはい西の天いまぢゝ ▲ふるたや しゝ
やしりの内ではござる ▲この さゝいはいまゝまゝちやう
さゝゝ ▲ふるたや たゝは ▲この まつびゝとはいはゝちやう
ぢんゝゝいはいはいちやはいまゝはいはゝちやの
ぢよわゝゝはいはゝ年をさぢまする つまゝはいはゝ
まゝ二ぢ屋のはいはゝゝちゝはいまゝとさぢはゝ
わゝはいはゝゝゝちゝあゝ屋いちやはいはゝはいはゝ
ぢ ▲ふるたや ちこまゝはいはゝちぢやぢりんゝはいはゝ
まゝ二ぢ屋はいはゝ私もさぢまゝつまゝはりちまゝ
ぬ私はゝはゝはゝ多ゝとさはゝはゝはゝ

らうとく▲とのゐ殿いたゐ命くるまぢや二枚二日通
ぢやとせうぬしまゐらう▲ぢやうこまつてゐざる
▲とのゐ殿いたゐ命くるまぢやもつやかつぢがわるさぬぐつま
よるのうちはぢいりんの一のさざりてまわらへ行
つまてぐつまとぐつひるか▲ぢやうまい
いらるるぞ私うちつげとさらしむちうひすもあぢざれ
ざれぢいりんへすいろ▲とのゐもつやうちひりくまいげうか
るつまでいのふてぞにあまへ行のさにぞぢまぐつけ
てわるぞうぢざるまでいるぞ▲ぢやうわらけてんでゐざ
ゐぞとのさあのぞの辛して世席ぐるひるいうざる

やうとぐつまるりまでぐひくてけてちかけしやまいとかけ
ゐるまでゐざろ▲とのちてかけまりけるぞぞ
まぐしさとゐくさうべうう三命あいあてもかいあ
ぢりぢりてぐつまちるけうけうあいうら
ぢりておうふまとうてぐつまとかけしやるまふ
ぬいそひでつま▲ぢやうたわ猪ひさとりでゐざる
さうばつてみまもうぞうぞるうあ辛はいうつて
わうぞりくうつまさううはさるうあ辛はいうつて
つまかぐぞりまもうぞ▲とのそとかあつりいわるる
ひ賀みてつま▲ぢやうそれるうぞうぞのさあのぞ十沖

私のいとこ七八のどつりまをせう▲このいまごろるまどいい
ふしぎりこの命あけ家よりてつまを▲くさたこまりのたぶい
つらふくこにおりのこあつらぶたぶせそべでぼろよ十
七八どつろうよあるまやしこりのくどのこあく
こりるいこりこぶたこしまをせう▲このいやこのり
わこいまこもあつこまるひやんくのせるこよか
ふそのよ▲くさたこやそれがこうはさろざこいあいんさ
りしやまいざこりてこれのいかつこあおこふいトあ
てはざろやんくこまいりんいこさこう▲このあいたる命
くまたやるんちいこれへつまこくいひやいこいのふか

こにうるまひの用こそとしておけ▲くさたこやこのり
てはざろやにやまこすこざこあるこことやまこくこいこご
まろあいこまこよあいがやんじやそやひろこと
らりしやまいあいりんいこまこう▲このいやく
▲くさたこやてんとこさこへあいこうへこいこのこいこあ
はざろまこひやひこころこまこのこあいあんいこさ
こうおこたりこいがこうこまこくこうへた
つこうはざろいざこざこれあこてやまやこうこの
さあくざこさへまこりのてごこらへまこどやう
はざれ▲このたる命くさじやりざこまこりふこざこう

まくそれぐしもらいんらうこそこのうふる
とうらのしやい ▲とうらう いやく ▲とのの いやとうまるいぢの
まひぜひこそもこそのしやきいぢるまいうるぢわと
あるこそぢおとうぐぜぐわ ▲とうらう こまやのの ▲とうらう あまひ
といつるまぐあるわう屋るまひく ▲とのの 二命屋
もこそこあぬんしや屋いく たる中くましやわう
ひさう屋ぐかうひさいぢそちのぢぢちんうやせ
▲とうらう りやせといまるいあるまひ ▲とのの のみわそろ
しや ▲とうらう 屋るまひそく

四　かうしあてうひ

▲京菓　ぞうんざ　ぞうあはのそとこぶ

▲女房　ちうちうぴあうちうけぴのでけざるぷ男大がつまあひ

いるのかのぷはそでぱざるぷおそこぷけざるかぷこぷ

いどぷこうてどうかぷはざるぷむこひこぷいこぷと

ぷひすするぷ京菓屋ぞそぞのやうこぷ

ちうしわきそぷうけるやぷのむそのいちく

しやうでものむがりうのちやうんがうこうい

▲京菓　ぷいそこかぷあどそうけしあぷへそいぷう

こうかぷんちうぷうけるいとぷやうけてぷこけのこと

▲女房　のぷ京屋ぷのひるのいぶ

いるのふかどけぷとあはくしや▲京菓　いやいこあどや

しがうまあうどこうさあのぷかいやく▲女房　のぷそのぷ

いかるぷいまぬこぷいそいどぷいこあどぷくしやいの

▲京菓　あふかんありそこのまどかいりのとと

けてうせい▲女房　あぷその一こうしとぷくしや

▲京菓　へいこさうぷけぷのあがかいこうこうぞさわと

てけぷ女房　どこうけこれぷがまそこうこうとまこぷの

ちつと祝ものせうまて▲女房　まこいぷいこあどこうり

まこてぱざるがひそうあうぷかうしがぷまこ

ようろうとおりへむこのうはごらまするこ
ものおぢこまじぢうさ毎のうへむけてこうま
せう ▲六番 まうりあうろうばあうりのこのでは
ざうこうやうよはざれいこ京言葉とや者よ女房とう
うどいうてはざるがこ又さりまして はざうろうが女
房がこのいうくとこりくこはざるこいてゐんまあつとこで
んむこうこれいこそこ母べうてこうをけておうのよ
京言葉とこうや也 ▲京言葉 いうぶうはごうまして たる
いくこおんなどこ菜とこうこの所言葉
それこのにとおしやるこでこちいは女房とこいる

げるが ▲京言葉 おんとおりしやまするこで男はこが女
房とこいことこうちやれまするう ▲大言葉 やうく
▲京言葉 ひうんおうとおうしやあまいるとひうち
はとこいこそしこうめうるこでいはざるわ ▲大言葉 その
ちやうこうるこうこーこうおちやうまひそ ▲京言葉 やま
こうこいゆめのやうよおやこまうまたゆはこが通よるいい
まして たといこうまするとこもおまへのこめ
ていこうこれいこうこうくもはざるわ ▲京言葉 のよ
くこそのやうよるいこいこうんでいこちこがわくま
ひおるのこのうちやこどまうこがここいこいゆく

国立国会図書館　タイトル『狂言記』　請求記号 京-71
ガラス使用

まひいそのぐわいこくやまて
▲京大　うこまのてはぎ
ぬあとをたのこまのてう
▲うはき　ちやびわうしぐたて
がのうまのはおうきにつるをたに
ちつがとくおさい
まくびをりさそそえるかぢ
をとうるわさいいこ
きふるのいなせどのまどのあ
ぬのとはうとのはりふるぬ
をうあちのとくぬのてれはり
てたうさをぐぷいさ
ましてぷうわりてくまうの
そこひしさのふそこりくへ
ねとばむちちん
りかあ房ぐてはあかをとう
けぬわんしまぐ

まてそわうへはゆうぬう
▲うはき　ぬりをかんをてざと
ぬをもんこまでおくわうし
▲安房上　かうしぐちそこでひとり
ちしてぬのりまうぞうへら
のぬしをやさけとていうふりわ
てくびあまうへ
▲安房上　みちのまうたのむまれつきぷち
どさくまはかればかあ
▲京大　ぬへみちのまうさもぷうのうさぷでもさき
やうのわまうあうをとはい
▲安房　それはぷこくう
▲京大　うへくふ
▲うはき　あくふ

ていちひとのあんもうにたちまちぶらぶらもんの
をぶまいむとてめむこよりうやをまきうんやう
そうりいとしうてあらさるや▲世房さあ
むぞのぞでひりいそひうちちひとうち
ゆまうん▲京丸さそは八まうんもはちぐんわま
やりうのあるうどちのとうちとと
けてうちううげうさとうちうちを
ようだうどうさよしてわがあるうら
うきうさよしい

ふうぢまり

▲の
あるこころいぶかしのりのでは
ござるだれかこはされい
一人つれとんあるぞそれしーこひき
ともらのいろ
ろへあるおりそいそはざるぞけいあ
ろうろ
ろ格子ではざる程ようあるき私宅へあちらへせ
りうんとどうやうとそんきろぞそろくまい
らつあるきそのくいあつではざるぞそれしーこひ
きとそれいあるぞ日わいろうとはざるぬ
いあらの
のあもはさりおりよさあせろうんのいそ
いわりどのふうきづきくいそではざるそれば

うこ
ろとちのくはざるものしさざうてわろあで
はさしつくりこ
とうこうびしまうこ
さでもおわんあい
▲こうこうあ
ろうきどくやあわ
んあるいがわろ業内はたそだちのさあではざ
るきすろう
▲このちこりおろちろの業とい
きくふるいぶかしでいちきつうそのうん
それしーこ
ばとちらはたの極山でおろる
で
▲こうこうそはは事ではざるきはこは
ひきとこりたぞんつりいろろトんのるそは
されいぞはしきひとなるこうて爾士ぜんぢ

やうにてはざる。▲とのもちてうどんちやうす
さいぱちうにひさしとこりぬかうてぬりそうう
▲こうもん　もわ　▲とのあれさてぷいさんを打てもい
うしたいしそんすさしぐぐぜんぢやいさ
したとやぷいい神のはなし又富士の松子もう
けうあつりうふはざりぷやまがさうかうとそん
ぢうぷいそこかあけりうちわぐさゆうに
▲こうもん　それいまことではざらまするう▲とのかん
でものいてう▲こうもん　わうしやてやの▲とのあいそこか者
うていまの心ぱいとあけうう▲こうもん　されいいとしう

もわさちうくぐちうひきうそのてすなか
ちうちうちうとおそしすうとそんしぷ分のけと
つめてはざる。▲とのいまとうそのうへうる
ぐうまこぢつとちさへうさ▲こうもん　もけ▲とのさてな
ふしう富士の松子いぷのふしてあうそ▲こうもん　そのう
てはざりまうすうぷ日ぷ一のおしではざれいまうつう
げうのんうこいみひうう言へひきもちざうさそ
ぢびうしいうてはざる。▲とのかうさうわうふと
いやそれうの分のんぢぷ富士松うわらとといてさ
たわうぐちけうとうさい。▲こうもん　いあそれうしづるすてい

はさらりとしたまひ。▲このうそとはうぬれをいつて
▲こうさうや　はぐやまのうかがしらいつは
▲こうさうや　さてもくおもさるのいはやをあけしやまうも
ぞんせぬさまではぐるひとのとはやまづらまま
てはさりました。▲このたづらまつりとも
みちふんぐくうあるまひいそいてみせい
▲こうさうや　はてまれてはさるえへはさりませうさう
くあのこつけの松ではさる。▲このなかいこさちやね
もくこうやけまうしておちあるこをうこうへうま
でおるまやはそれもしもあんちがうたてのまに立と

はくつこあの松とおもとこのあがみたかはこしふそ
てあまどこつぐこい。▲いやあまいんのではさり
まうまう。▲このそのさるくばうちあしふそ
▲こうさうや　それいるのみとはさりまうそ。▲このくへりの
とつへも同心でおるまちのぞふとうかうやふか
もあおりひつけくぞあまくノ三帝のてそうと
のるのさるのさとかよ。▲こうさうや　たの分どもさひて
いはざれうと一ふりおそおりまうする。▲このたわこうさ
らいうけのるとかよ。▲こうさうや　見いうひうんあでいはは
されたつるのさ面ばはこうまうせあ。▲このいかこつつけ

さて　▲こうさめ　めいそてはさされいたてまくけうてはれ
さうかの〳〵いのけつ〳〵ひらつ〳〵まをうはなと　▲このわく
をしうちがやそをるの〳〵いりとやうりとうそ
▲こうさめ　ト屋指　▲このあんたがや　▲こうさめ　見て面白はは
ぐはさらまをすう一のおうらまをう　▲このちうらへ
ろはいのこうこあ　▲こうさめ　そのはるまてはざうまを
はをとあうまをすをいうでせんがやうをされて日
ゆではさうまをする　▲このそうぶる〳〵いつのりおいそうぐ
おそこい　▲こうさめ　ちつやいく〳〵　ぶをしたのうぐおうかのはざうこ
はとぐをはうはいそのうう〳〵けいうも葉のおうをも

りて〳〵ちのりとうへてこい　▲このたうをうまちがやめぐいうう
つまうかをうとみうこ　▲こうさめ　ちつ一つおうらまをう
▲このうんりのてうこうう新百ちがやつ一つのりのやいうまし
やうこうをしよつけてぐうしとぬさう行うよかうをう
やのいて〳〵すしのよおのうをやうのはのていれとい祝こと
うをうまをうで　▲こうさめ　ちあ　▲このうこうもはをやうこうよ
りてうう〳〵けいうのうあうを　▲こうさめ　うんのうのへて
まいうまのをう　▲このいそのぐぐうへてこい　▲こうさめ　ちの
やいく〳〵ぬを　ぬうはとうう　ちがうう〳〵ぬうう〳〵ぬの
をうのしやをうぐうしとうるされうらいとた

ゐるものもいらうまへくまつりまらせ▲とのもそれいまのいつけるら▲こさまもやゐるのはしるのさまされてはざるる▲ぬしよりてはうらうけいろのつるあるも▲こさまもやほてしはぬるつざめゐりまらりとぬくうてはさるる▲とのかりてのけておらぬやらそれく今日山まのもん日山まへむけてぬやさんまる▲こさまもやはれはまりまらせうら▲とのふんしてはとせまひしいつるまら▲こさまもやわりやまりまらまる▲とのうちよそのうへみちまうしの句でおりやるるまるよなまるるやはしく私とうるそ▲こさまもやはるてはさるる▲とのうるうしのおの。やらうあとるるはしよまるまりうまるまる▲こさまもやわしく心まる

やい▲とのやいそこかあのりるもしよおの重いそれてやまるんで
おるそ▲こさまもやそのおるまではざるりまるまるまるぬ
まるもしはまるまされまるしはよのてもしやまるんてれ
まるまるる▲とのの句でおりやるる▲こさまもやはるるるるるるるれ
まるるまされいでるるもはまるるまる▲とのるるるとるものと
▲こさまもやるるるるるるれはるのしるまはるるるるるるるるる
るのるはしよまるりまるまれ▲とのおるるるるはるるるるるる
るるいはるまるや▲こさまもやまるるまはまるまる▲とのまるる
おまはるる▲とのるるるるるるるるるるる▲こさまもやるるるる
はまるまるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

国立国会図書館　タイトル『狂言記』　請求記号 京-71　　ガラス使用

世ぶやうるやいこの青蕨赤蕨白蕨みるこゝろのまで
わうしわりやふうぞうこゝろのもつてのぶこゝろ
うしはけざこゝろうしはけざこゝろうぞうこゝろさいぞうこゝろうぞうこゝろ
もとの紫のわとこさぶうへのわとこぶうこゝろ
ざこゝろぞうこゝろめまるいたこゝろぞみるこゝろ
ぞとりこゝろめいたこゝろうこゝろはこゝろこゝろ
むこうへとこゝろるこゝろの義こゝろ
ひけまこゝろうこゝろはこゝろこゝろ中いこゝろ
こゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろ
いけとこゝろいこゝろこゝろこゝろ

でわこゝろこゝろこゝろ山まのわこゝろこゝろ一日こゝろ
こゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこ

やあい油と来しと千日千秋つゆわひとりてことらち
いわくまひわのむしこまのろ一年ちこまてひとりふう
ちうとちわるとりのてまろ　こまれわるいわひくくこ
はさろ　このめのまくちまいろまられわるよ　ここれわ
るよつまりてせるとこさわてるとこれまるる
このたうるるまてとてうたたるゆんてもるん
ちがちこうこ　こさちやけうくくりるわ法ぐこ
ろちか　このるんてよるいるまさらかれるつ　ここれわ

寛文五巳年三月日

板木源右衛門開板

国立国会図書館　タイトル『狂言記』　請求記号 京-71

ガラス使用

京
2
71

古流池之坊
東山青山
遠州正風

諸流合傳

挿花初心傳

全部四冊

此書ハ清先生の秘訣をたづね
初心生花をまなぶ人の師匠
たるべき道をひらく名をなづけ
て山出しかぞるなり

東都醉花齋宗匠
初學生方

生花千筋麓

全部三冊

此書ハ東都醉花齋宗匠一家の秘伝なり
生花の道をまなぶ人の指南の為の孔雀
数条を中〳〵門人〳〵切紙〳〵を授ケ
秘訣口決を弟〳〵る初心まなぶの大全ニ

大阪書肆
秋田屋太右衛門蔵板

三都
發行
書肆

江戸芝神明前
岡田屋嘉七
全淺艸第町二丁目
須原屋伊八
全日本橋二丁目
山城屋佐兵衛
全壹丁目
須原屋茂兵衛
京寺町丸太町下ル
勝村治右ヱ門
大阪心斎橋通壹丁目
秋田屋太右ヱ門

国立国会図書館　タイトル『狂言記』　請求記号 京-71
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『狂言記』　請求記号 京-71
ガラス使用

京
合
71

国立国会図書館　タイトル『狂言記』 請求記号 京-71

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『狂言記』　請求記号 京-71

ガラス使用